

阪神港地区



成長産業の国際競争力を支える海上輸送拠点

神戸港、大阪港の一部から成る阪神港地区は、日本と世界を結ぶ海上輸送拠点として、西日本全域の経済活動を支えている。2010年には国土交通省から「国際コンテナ戦略港湾」に指定され、集貨や創貨、さらなる国際競争力の強化に向けた取り組みを推進している。

事例

阪神港

事例概要

取り組み

イノベーションを下支えする
物流基盤の構築

特区の支援

港湾機能の強化に
資する規制緩和
および
財政・金融支援

経済等への貢献

海外輸出の
バックアップによる
国際競争力の向上

国際コンテナ戦略港湾として 海洋国家・日本の復権へ

近年、経済のグローバル化や新興国の成長によって世界の貨物量が大幅に増加したことに伴い、各国の港湾における主導権争いが激化している。このような中、韓国の釜山港などアジア諸国の港湾が急成長を遂げ、日本では世界からの大型船寄港数が減ってきている。四方を海に囲まれた島国・日本は、輸出入のうち、実に99%以上を海上輸送が支えており、

港湾の強化は日本の国際競争力を強化するために必要不可欠である。

全国の取扱貨物量の約6割を担う阪神港と京浜港は、2010年に国土交通省の定める「国際コンテナ戦略港湾」に選定されて以降、世界の海運事業者から東アジアにおける主要港として位置付けられることを目指しさまざまな取り組みを進めてきた。

港湾を取り巻く情勢は昨今、コンテナ船の大型化やアライアンスの再編など目まぐるしく変化している。こうした状況に対応し、日本企業の国内立地環境を向上させるためには、国内港湾に寄港する基幹ルートを維持・拡大していくことが重要であり、国際コンテナ戦略港湾政策をこれまで以上に強力に推進していく必要がある。

国際コンテナ戦略港湾としての 3つの戦略

阪神港は国際コンテナ戦略港湾として、国内コンテナ貨物の「集貨」、企業誘致による「創貨」、戦略的な港湾運営の実現やコンテナター

ミナルの整備などによる「競争力強化」の3つの戦略を打ち立て、国、神戸市・大阪市、阪神国際港湾(株)が一体となって、港勢拡大に取り組んでいる。

集貨

国内コンテナ貨物を阪神港に「集貨」するために、西日本の各港から阪神港に海上輸送を行う内航フィーダー(※1)網の強化を図っている。具体的には、瀬戸内海ルートは外海に比べて天候の影響を受けにくい安定した輸送ができるといった強みを生かし、九州北部や瀬戸内西部から阪神港へ貨物輸送の取り込みを狙うものである。

※1 内航フィーダー：国内港間による基幹航路に就航する本船の寄港地(主要港)と、本船の寄航しない港(支線港)との間の輸送(支線サービス)。特に国際コンテナ貨物の二次輸送を指す場合が多い

創貨

「創貨」については、阪神港の近郊にある産業施設用地に先端産業や製造業、流通加工系の企業などを誘致することで新たな荷を生み



神戸港のポートアイランド第2期コンテナターミナル



大阪港の夢洲コンテナターミナル

出すことを狙っている。港の近くに拠点を置くことは、物流コストの低減やリードタイムの短縮に直結するため、企業にとってもメリットが大きい。誘致に向けて、自治体による税の優遇措置などを行っている。

競争力強化

「競争力強化」を実現するには、港湾コストの低減やコンテナターミナルの整備が鍵となる。コンテナ船の一層の大型化が進んでいることから、阪神港ではこれに対応した高規格コンテナターミナルの整備を進めており、現在、合計22(神戸港13、大阪港9)のバースが運営されている。そのうち、神戸港では6ターミナル、大阪港では夢洲において16m水深の岸壁が供用されており、大型船が着岸し荷役が行われている。

特区のメリットを生かした 港湾運送事業者による取り組み

最新の高規格コンテナターミナルの積極的な整備と並行して、特区制度を活用した設備投資により、物流倉庫や荷役・荷さばきに必要な設備の強化が行われている。例えば、株式会社上組(神戸市)は2012年11月、特区の支援を活用して、敷地面積約9万㎡、延べ床面積約5万㎡にも及ぶ物流倉庫を新設した。この倉庫は冷蔵機能を有し、医薬品や生鮮食品など温度管理が求められる貨物の扱いが可能な点が強みであり、関西発の医薬品を海外輸出するための大きなバックアップとなる。また株式会社辰巳商會(大阪市)は、ばら貨物(※2)の荷役作業を効率化する設備を開発し、商船港運株式会社(神戸市)では2012年10月、最新鋭のコンピューターシステムにより効率的なオペレーションができる荷さばき設備を導

入。従来よりも効率的に船から物流事業者への積み込みができるようになった。

※2 ばら貨物:包装されずにそのまま輸送される貨物(穀物・鉱石・化学繊維など)

日本の産業を支える 縁の下の力持ち

国際コンテナ戦略港湾としての3つの戦略の実行と特区事業の推進によって、阪神港の国際競争力は着実に強化されてきている。西日本最大の物流基盤である阪神港。その背後圏の関西には、医薬品・医療機器や、リチウムイオン蓄電池・太陽電池などといった、これからの日本をけん引する成長産業の研究開発拠点や生産拠点が集積している。港湾が廃れてしまうとライフ分野、グリーン分野はもとより、日本の成長戦略にも影響が出る。阪神港は国際コンテナ戦略港湾として全ての産業をこれからも支えていく。



辰巳商會の荷役設備



商船港運の荷さばき設備

阪神港地区の区域

兵庫県神戸市東灘区・中央区、大阪府大阪市此花区・住之江区の一部



神戸港

※青色部分が対象区域



大阪港

※青色部分が対象区域

関西国際戦略総合特別区域地域協議会事務局

〒530-6691 大阪府大阪市北区中之島6丁目2番27号(中之島センタービル30階関西経済連合会内) TEL/FAX 06-6443-7530

関西イノベーション国際戦略総合特区



<http://kansai-tokku.jp/>

